

分野名		生体機能形態医学分野							
科目名		視覚機能病態学							
英文科目名		Division of Vision Research							
担当教員	研究指導教員	佐々木洋教授							
	科目担当教員	久保江理教授							
代表的な研究課題		薬剤の眼毒性と眼薬理学							
		眼感染症と化学療法							
		白内障の成因と疫学							
学修目標	一般目標	豊かで、質の高い生活を営むために視覚の重要性があらためて認識されてきている。本科目はさまざまな感覚器の形態、機能を基本に、各種疾患の病態、診断、治療について専門的な分野での高度な知識、技法および指導力を持つことを目標とする。							
	行動目標 (DPとの関連)	眼組織の構造、機能および病理学上の根拠にもとづいた診断、治療、予防について学ぶことができる。						(DP1・2・3・4)	
		眼感染症と眼薬理学の知識を修得できる。						(DP1・2)	
		全身病と眼疾患についてその病態生理、両者の関わりについて学ぶことができる。						(DP1・2)	
	学位授与方針 (DP)	DP1：医学・生命科学全般にわたる幅広い学識と生涯にわたり自立して研究活動を継続する能力を有している。							
DP2：高い倫理観と高度の専門知識を有し、最先端の医学研究を企画・立案して遂行する能力を有している。									
DP3：独創的な学術論文を論理的、かつ明確に記述して公表し、国内外の学会において発表し討議する能力を有している。									
DP4：科学的技能を活かして、地域医療から国際保健・医療まで医療全般の進歩に貢献し、次世代の研究者育成にも貢献する能力を有している。									
教科書		標準眼科学 第14版 中澤満他編 医学書院 2018							
準備学習	内容	教科書の該当箇所を読んでおくこと							
	時間	60分/1回の授業あたり							
課題に対するフィードバック		レポート等の課題を提出させた場合は、内容のチェック・添削を行い、本人へフィードバックして理解度のアップをめざす。							
評価方法等	評価方法	出席とレポートで総合評価							
		評価配分：出席 50%、レポート 50%							
	成績評価基準	教育要項22頁[成績評価・単位認定方法等]参照のこと							
科目番号		講義	5011501	演習	5011502	実験実習	5011503	特別研究	50501017
単 位	4		4		4		6 (2-4年次で)		
	30コマ	60H	60コマ	120H	60コマ	120H	30コマ	60H	
開講時期		通年		通年		通年		通年	
配当年次	主科目とする場合	1または2年次		1または2年次		1または2年次		2-4年次	
	副科目とする場合	1、2、3年次		-		-		-	
選択/必修の別	主科目とする場合	必修		必修		必修		必修	
	副科目とする場合	選択		-		-		-	
時間割	区分	講義		演習		実験実習		特別研究	
	昼間	前期15週	月曜 5限目		火・水曜 4限目		火・水曜 5限目		土曜 2限目
		後期15週	月曜 6限目		火・水曜 6限目		火・水曜 7限目		土曜 3限目
	夜間	前期15週	月曜 6限目		火・水曜 6限目		火・水曜 7限目		土曜 3限目
後期15週		月曜 6限目		火・水曜 6限目		火・水曜 7限目		土曜 3限目	
備考		授業時間の詳細は、21頁 [医学研究科における授業時間] を参照のこと。							
		上記の時間に参加できない場合は、担当教員と協議の上、具体的な時間割を決定する。							

担当教員	講義	演習	実験実習	特別研究
	佐々木洋教授	佐々木洋教授 久保江理教授	佐々木洋教授 久保江理教授	佐々木洋教授
授業内容	<p>今日の情報化社会および高齢化社会において、豊かで、質の高い生活を営むために視覚の重要性があらためて認識されてきている。本科目は眼科が担当し、さまざまな感覚器の形態、機能を基本に、各種疾患の病態、診断、治療について講義を行い、さらに専門的な分野での高度な知識、技法および指導力を持つことを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・眼組織、特に透明組織における疾患の病態を理解させるため、組織の構造、機能および病理学上の根拠にもとづいた診断、治療、予防、特に水晶体疾患と視機能の関連について眼光学の立場から講義する。</li> <li>・眼感染症の診断と治療に関する知識を習得させ、あわせて眼薬理学、薬物療法について講義を行う。</li> <li>・全身病と眼疾患についてその病態生理を論じ、両者の関わりの大さを理解させるとともに他科との情報交換の重要性を実感させる講義を行う。</li> </ul>	<p>加齢性眼疾患の診断、治療に関する国際誌に掲載された基礎的論文を提供し、セミナー形式で発表させ、理解力ならびに自己発現能力を涵養する。また眼光学の基本を把握させた上で、光学機器の使用法、画像の読影法を修得し動物実験に必要な手術技術を学ばせる。これらのセミナー、知識、技術を通じて、眼疾患を理解させ、眼研究に必要な能力と将来の眼科教育に必要な指導力を養う。</p>	<p>眼科研究に必要な実験動物の取扱方を理解させる。その上で生化学的、薬理的ならびに組織学的手法を用いた実験法を駆使して目的とする成果を挙げさせる。眼疾患に関する疫学的手法を理解させる。特にサンプルのとり方、統計学上の取扱い方を解説し、パソコンを用いた実習を行い、臨床および基礎研究での応用可能な技能の習得をめざす。</p>	水晶体の基礎研究、白内障の疫学研究
授業場所	臨床研究棟4階 眼科学医局	臨床研究棟4階 眼科学医局	臨床研究棟4階 眼科学研究室	臨床研究棟4階 眼科学 他
授業計画（インターネットに掲載）	講義	<a href="http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5011501.pdf">http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5011501.pdf</a>		
	演習	<a href="http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5011502.pdf">http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5011502.pdf</a>		
	実験実習	<a href="http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5011503.pdf">http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5011503.pdf</a>		
資格取得などのキャリアパス	日本眼科学会専門医の取得を目指す。			
研究指導教員の実務経験	医師			
履修上の注意事項	①質問の受付は、随時行う。			
	②特別な配慮を必要とする場合は、事前に担当教員に相談すること。			
	③主科目として履修する場合は、1年次に共通科目実験動物学を履修すること。			
	④履修科目届にて履修希望を届け出し、履修年度の2月に、授業科目履修報告書にて、成績を報告することにより、修了要件の単位として認定される。			
	⑤履修報告の際には、履修した科目ごとに「授業改善のためのアンケート」を添付すること。			
オフィスアワー	佐々木洋教授（臨床研究棟4階 眼科学教室） 火曜日 午後（事前にメールでの照会必須） e-mail <a href="mailto:mogu@kanazawa-med.ac.jp">mogu@kanazawa-med.ac.jp</a> [at]→@			